

令和 6 年 9 月 11 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K03185

研究課題名（和文）社会情動的スキルをトレーニングするためのプログラムの開発と実証研究

研究課題名（英文）Development and Validation of Training Programs for Social and Emotional Skills

研究代表者

向後 千春（KOGO, Chiharu）

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：00186610

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、社会情動的スキルについてのこれまでの知見を元にして、その全体的な構造をモデル化し、それに基づいて一貫性のあるプログラムを設計開発することを目的とした。さらに、そのプログラムを実践しながら改善し、その効果を検証した。社会情動的スキルのレビューに基づいて、それを特に成人にトレーニングするためにはどのようにすれば良いかについて考察した。さらに、社会情動的スキルをトレーニングするためのワークショップを設計し、早稲田大学エクステンションセンターでオンライン講座を開催した。これによって成人の社会情動的スキルに関するプログラムの土台を作ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

非認知的スキルあるいは社会情動的スキルは、生涯にわたって社会生活を営む上での土台となるスキルとして位置づけられた。社会情動的スキルは遅くとも小学生の頃にその基盤ができると考えられている。その一方で、そうしたスキルが乏しい成人は対人関係や情動のコントロールにおいて問題が発生しやすい。したがって義務教育段階にとどまらず、成人においても、また生涯学習としても社会情動的スキルのトレーニングがなされる必要がある。本研究は成人を対象として社会情動スキルをトレーニングするためのプログラムを開発することを目的としている。

研究成果の概要（英文）：The aim of the study was to build on previous findings on social-emotional skills, to model their overall structure and to design and develop a coherent program based on it. Furthermore, the program was improved through practice and its effectiveness was tested. Based on the review of social-emotional skills, we discussed how best to train them, particularly in adults. Furthermore, a workshop was designed to train social-emotional skills and an online course was organized at the Waseda University Extension Centre. This helped to lay the groundwork for a program on social-emotional skills for adults.

研究分野：教育工学

キーワード：社会情動的スキル 非認知的スキル 基本的心理欲求 インストラクショナルデザイン ワークショップ

## 1. 研究開始当初の背景

ブルームは人が持つ能力を大きく3つに分類した。それらは、精神運動的領域、認知的領域、そして情意的領域の3つである。ブルームの分類の3つ目である情意的領域が本研究が取り組もうとするものである。情意的領域は、個人の考え方や行動に影響を与える価値観を含むものである。またガニエの学習成果の分類にしたがえば、態度に相当する。ガニエの言う態度とは「ある対象・人・事象に対する個人的行為の選択に影響を及ぼす内的状態」と定義される。この領域を本研究では態度技能と呼ぶ。態度技能は、個人が持つ運動技能と認知技能を使うか使わないか、またどのように使うかを個人の価値観と信念に照らして決める能力のことである。

この態度技能をトレーニングする方法はいままで開発されてこなかった。あえて探せば、理想的な他者を自分のモデルとするモデリングやそれを身につけるためのロールプレイといった教授法がそれにあたるだろう。その心理学的な土台として状況的学習論が提起された。しかし、状況的学習論はどのような環境において個人がある共同体の一員になるかというプロセスをモデル化したものであり、直接的にそのためのトレーニング方法を提示するものではなかった。

こうした中で、21世紀に身につけるべき技能として社会情動的スキルが挙げられている。社会情動的スキルは、社会的スキルと情動的スキルからなる。まず、社会的スキルとは対人関係に関わるスキルであり、他者を適切に理解し、協力関係を築くためのスキルである。そして、情動的スキルとは自分自身を知り、コントロールすることに関わるスキルである。そのことによって自分の注意や関心を適切な問題に振り向けること、感情(特にネガティブ感情)が起こる仕組みとその対処法を知ること、自分が暗黙の前提としている信念や価値観を明示的に理解することができる。

このようにブルームやガニエによって、情意的領域あるいは態度として定義されてきた領域は、間接的なスキルの産物として獲得することはあっても、直接的なトレーニングの方法の開発までには至っていなかった。そこで、21世紀に重要な能力として社会情動的スキルが定義されるに至り、その開発が徐々に進んでいる。具体的には、学校教育の各段階で次のような実践が行われつつある。初等教育では、ポジティブな思考法を教えることで、ポジティブな感情が生まれ、それによりポジティブな行動に至るサイクルを形成する実践が行われている。中等教育では、ドラッグや暴力に対するレジリエンスの文脈で自己制御や人間関係スキルがトレーニングされている。高等教育では、認知行動的介入やマインドフルネス、またソーシャルスキルがトレーニングされている。このような実践で得られたデータから効果のあるトレーニングと効果のないものを区別する知見が蓄積されつつある。

一方、学校教育以外での成人を対象とした社会情動的スキルのトレーニングは、たとえばアンガーマネジメントやマインドフルネスといったプログラムが開発されており、実践されつつある。しかし、いずれも単発的なものであり、理論的な枠組みの中で社会情動的スキルを包括的に捉えたプログラムとはいえない。そのため成人を対象とした社会情動的スキルのトレーニングプログラムの開発と実証が求められている。

## 2. 研究の目的

本研究は、社会情動的スキルについてのこれまでの知見を元にして、その全体的な構造をモデル化し、それに基づいて一貫性のあるプログラムを設計開発することを目的とした。具体的には、研究期間の3年間で以下の3点について明らかにしようと計画した。

- (1) 社会情動的スキルについてのこれまでの知見を元にして、その全体的な構造をモデル化する。
- (2) 社会情動的スキルについてのモデルに基づいて一貫性のある具体的なプログラムを設計開発する。
- (3) そのプログラムを実践しながら改善し、最終的にその効果を検証する。

## 3. 研究の方法

- (1) 社会情動スキルの重要性についてレビューし、それを特に成人にトレーニングするためにはどのようにすれば良いかについて考察し、そのレビューに基づいてオンラインで社会情動的スキルをトレーニングするためのワークショップを設計した。
- (2) 早稲田大学エクステンションセンター中野校で「社会情動スキルを身につける:アドラー心

心理学をベースにして」というオンライン講座を2日間にわたって開催した。これは1つ目のレビューとトレーニングの設計に基づいて、実際のトレーニングコースを実施した。

#### 4. 研究成果

- (1) 日本教育工学会で以下の2つの発表をした。社会情動スキルの重要性についてレビューし、それを特に成人にトレーニングするためにはどのようにすれば良いかについて考察したものと、そのレビューに基づいてオンラインで社会情動的スキルをトレーニングするためのワークショップを設計したものである。
- (2) 早稲田大学エクステンションセンター中野校で「社会情動スキルを身につける：アドラー心理学をベースにして」というオンライン講座を2日間にわたって開催した。
- (3) 研究レビューを進め、日本教育工学会の2022年度春季全国大会で「教える前提としての基本的心理欲求と学ぶ基盤としての社会情動スキル：その統合とコース開発」と題する発表を行った。
- (4) 日本教育工学会の研究会で「基本的心理欲求とアドラー心理学に基づく感情制御のコース設計」という研究発表を行った。
- (5) 最後にこれまでの研究のまとめを行った。コロナの影響により、実践による検証は不十分だったものの、社会情動スキルのコースを設計するというめどは立った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 向後千春	4. 巻 2022
2. 論文標題 基本的心理欲求とアドラー心理学に基づく感情制御のコース設計	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集	6. 最初と最後の頁 44-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15077/jsetstudy.2022.2_44	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 向後千春
2. 発表標題 教える前提としての基本的心理欲求と学ぶ基盤としての社会情動スキル：その統合とコース開発
3. 学会等名 日本教育工学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 向後千春
2. 発表標題 社会情動スキルのトレーニングをどう設計するか
3. 学会等名 日本教育工学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 向後千春
2. 発表標題 社会情動スキルオンラインワークショップの設計
3. 学会等名 日本教育工学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	杉浦 真由美  (SUGIURA Mayumi)  (10829899)	北海道大学・高等教育推進機構・准教授   (10101)	
研究 分担者	富永 敦子  (TOMINAGA Atsuko)  (60571958)	公立はこだて未来大学・システム情報科学部・教授   (20103)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------